

2025 年 11 月 12 月、2026 年 1 月の行事 などの開催案内

- 11 月 2 日(日) 和泉葛城山 ～ブナ林 秋の自然観察会～ **かいづか家族の日関連行事** 受付 10/1 ～10/25
- 11 月 15 日(土) ワークショップ「苔テラリウムを作ってみよう」 **かいづか家族の日関連行事** 受付 10/1～11/2
- 11 月 23 日(日) 「石を割って化石をとりだそう」(白亜紀の化石クリーニング実習) 受付 11/1～11/16
- 11 月 29 日(土) 貝塚の石の観察 近木川河口の石調べ 受付 11/1～11/23
- 12 月 11 日(木)～1 月 28 日(水) 「キモかわすごい！海の骨なし動物の世界」 国立科学博物館巡回展
- 12 月 20 日(土) 日本紙工(株)×遊学館 ワークショップ「段ボールで来年の干支を作ろう！」 受付 12/1～12/17
- 12 月 27 日(土) ワークショップ 「しめ飾りを作ろう！」 受付 12/1～12/21
- 1 月 4 日(日) 七草粥のいまむかし 受付 12/1～12/24
- 1 月 24 日(土) 打ち上げ貝拾い 受付 1/1～1/18

※メールで行事申込の際は、①希望行事名、②参加者全員の名前と年齢、③住所（番地以下は不要）、④連絡先をご記入いただき、 shizen.desk@icloud.com （このページの下に行事申込用メールの QR コードがあります）までお願いします。抽選による参加の可否につきましては、締め切り後の抽選の結果を代表の方にお知らせします。

第 45 回全国豊かな海づくり大会「魚庭(なにな)の海おおさか大会」について
令和 8 年 11 月に漁業の振興と発展を目的として、全国豊かな海づくり大会が開催されます。今回の開催は大阪府で初めてとなります。この大会は、全国各地で毎年開かれている水産関係の国民的行事で、海の環境保全、水産資源の持続的利用、そして漁業・水産業の振興を目的としています。天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国から漁業者や研究者、一般市民が集い、海と人との関わりを広く共有する貴重な機会となります。大阪湾は都市に近接しつつも多様な生態系や漁場を育んできた海であり、環境保全と地域振興の両立が課題です。本大会は、大阪湾の魅力为全国に発信し、次世代へ「豊かな海」を引き継ぐ契機となることが期待されています。テーマは今後発表されます。自然遊学館は「6 月二色の浜で稚魚放流」「10 月水みらいセンター見学とプランクトン観察」以降もプレイベントを実施していきます。

令和 8 年 3 月 22 日(日)「自然遊学館研究報告会」 自然について調査や研究をされている方、研究報告会で発表してみませんか。自然遊学館では、調査や研究や発表までの準備の相談も受けています。昨年は小中学生や社会人まで幅広い年齢層の方が発表されました。



行事申込メール



Instagram



YouTube



ホームページ



貝塚市立自然遊学館
Kaizuka City Museum of Natural History

〒597-0091 大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1
TEL 072-431-8457 FAX 072-341-8458

ISSN 2185-11817

自然遊学館だより



JAPAN MUSEUM
登録博物館
Vol.116 2025.11



青き南国の蝶、あらわる アオタテハモドキ *Junoria orithya*

こんな蝶みたことない。貝塚市初記録となる迷蝶「アオタテハモドキ」です。
美しいコバルトブルーの翅をもつ南方系の蝶で、タテハチョウの仲間です。翅を広げると（開長）5～6cm ぐらいです。大阪公立大学の平井規央教授によると、後翅が青く、眼状紋が発達するメスは短日条件での特徴であるため、最近羽化した個体と考えられるとのことでした。幼虫の食草はキツネノマゴやオオバコなど、道端にでも普通に生える雑草なので、限定的な条件ではありません。では、いったいどこで羽化したものなのでしょうか。
本来、八重山諸島などに生息しているのですが、近年、北上傾向にあり、沖縄本島や九州南部などでもみられるようになってきています。これまででも、本州や四国などの各地でも確認されることがあり、大阪府内での初めての記録は 1965 年の 8 月に大阪市内で採集されたものともいわれています。2025 年 10 月 19 日、岸和田市の辻琥陽（つじこはる）さんが当館横の臨時駐車場で採集され、当館に持ち込んでくれ、寄贈していただいたものです。

自然遊学館ジュニア学芸員 2025 年の活躍



自然遊学館では、市民協働の一環で、自然遊学館わくわくクラブの皆様とともに、自然生態園の維持管理作業、市民の森やせんごくの杜などの調査、自然遊学館が開催する体験型イベントなど、さまざまな活動を行っています。その中でも、私が4年前に「自然遊学館ジュニア学芸員」として委嘱した自然遊学館わくわくクラブに所属する鞍井希風さんの2025年の活躍を紹介します。

これまで幾度も、自然遊学館だよりの中でも貝塚市初記録の昆虫を発見した記事を投稿してきましたが、現在では、より広範囲にわたって調査研究を行っています。その一つに、大阪府能勢町での直翅類の調査は、能勢町版レッドリストの選定の際にも貢献しました。その成果は東京農業大学厚木キャンパスで開催された[日本昆虫学会第85回大会](#)（2日目9月14日：写真右下）の一般の部でのポスター発表で「能勢町版レッドリストに向けた直翅類の調査とその後」として公表しました。その際、彼のバッタ目の種をフィールドですぐに同定できる能力は九州大学の教授の方などからも非常に評価をいただきました。同様に、2月1日に大阪で開催された[日本蛾類学会2025年研究発表会](#)では、公益財団法人乃村文化財団からの助成金事業の成果も含めた「沖縄本島におけるコシロモンドクガに関するいくつかの知見」というタイトルでの口頭発表も行いました（写真左下）。今では、大学などとの共同調査や調査協力へと進展しています。

EXP02025 大阪・関西万博において、7月26日に大阪ヘルスケアパビリオンのリボーンステージで、令和6年度おおさか環境賞受賞者の[御菓子司津村屋](#)の方とともに環境活動の取り組みを紹介し、[おおさか環境宣言](#)『地球環境を守るために、大阪から世界へ楽しく繋がろう。私たちの選択と行動で描く持続可能な未来社会のデザイン。』という採択と発信の場にも立ち会いました（写真上段）。

今年から大阪府レッドリストの改定作業も始まり、2016年は大阪府レッドリスト昆虫分科会でのバッタ目の調査などでのさらなる活躍も期待しています。

自然遊学館 2 階リニューアルのお知らせ

～化石・鉱物展示とデジタル技術による新たな博物館体験へ～

自然遊学館ではこのたび 2 階フロアのリニューアルを進めています。開館当初、2 階にはレストランが入居し、貝塚市蕎原で産出するアンモナイトをモチーフにした外観や、モザイクタイルと広いガラス面を特徴とするデザインが話題をよび、建築専門誌や建築系博物館から高い評価を受け新聞等にも紹介されました。

一方で、大きなガラス面は夏季の直射日光によって室温が上昇しやすく、快適な環境維持が課題となっていました。

こうした経緯を経て、現在は当館が管理し、新たな展示空間として再整備を進めているところです。

新展示としては、1 階で紹介しきれなかった化石や鉱物を中心に展示を拡充するとともに、公益財団法人 乃村文化財団からの助成を受け、2 階へと続く階段を「樹洞（じゅどう）」に見立てた演出を 2026 年 3 月の春休みから公開する予定です。そこでは、閉ざされた空間に生きるさまざまな生物たちの世界を体感できる構成となるように、調査や制作活動を進めています。

さらに、将来的には、3D 技術を活用したバーチャル展示を導入し、来館者のみなさまに新たな自然体験を計画しており、博物館としての新たな魅力を発信していく予定です。



バシ ヨウカジキ *Istiophorus platypterus*



2025 年 8 月 17 日、二色の浜の人工島の護岸（通称ベランダ）において、バシ ヨウカジキの全長約 50 cm サイズが釣り上げられました。成魚になると全長 3 メートルを超えるほど大きくなり、他のカジキ類同様に上顎が剣のように長く伸び、第一背鰭が大きくなるのが特徴です。帆のように広がることから英語では「Sailfish」と呼ばれ、日本語では、まっすぐな葉脈のあるバシ ヨウの葉に例えられます。カジキ類は外洋回遊性ですが、バシ ヨウカジキは最も沿岸に近づく種ですので、ここで釣られたのでしょう。